

## 自己点検・評価報告書作成以後の本学の取り組み

2011年3月10日の教授会で自己点検評価報告書の最終確認が行われ、これをもとに大学基準協会の認証評価を受けることが了承された。その翌日、東日本大震災が発生した。本学も建物その他に大きな被害を被り、卒業式は中止、入学式も行わず、新年度の始業日も1ヶ月以上延期せざるを得なかった。それでも建物の被害などは前期のうちに修復を終え、後期の授業は予定通り開始することができた。

この度の大震災では全学生数の一割を超える学生が被災したが、本学では被災学生に対して特別な授業料減免措置を講じ、新たな給付奨学金制度を発足させた。こうした経済的支援は少なくとも在学生在が卒業するまで続けられることになっており、本学の奨学金制度は義援金や国の支援を受けて大きく前進した。

また、激甚被害地に近い本学では、震災関連のボランティア活動が増加したことを受けて、学生のプロジェクト型自主活動や体験型学習プログラムに対する支援を積極的に行った。その中で様々な成果と課題が出てきた。

他方、大震災は志願者動向にも多大な影響を与えた。本学としてはそうした状況に対応することも急務である。

さて、2011年度中に行われた主たる改革・改善点は以下の通りである。

### 1 学生の学習生活環境の整備

1) 正課やサークル以外の学生たちの独自の活動を「自主活動」と位置づけ、これを積極的に奨励するとともに、活動資金の援助や集会・活動スペースを提供するなど様々な活動支援を行った。

2) 学生の学習スペースを拡充するため、図書館の改修工事を行った。

3) 授業支援や学生指導・就職指導等の補完を目的にポートフォリオ・システムを導入した。

### 2 MG-LAC（宮城学院女子大学リエゾン・アクション・センター）の本格稼働

1) 地域や産業界等との連携を通して学生の就業力の育成に努めた。

2) 学生による自主活動の活性化を推進した。

### 3 学生相談体制の強化

- 1) 学生相談室に主任ポストを新設し、2012年度より常勤の専門家を配置することとした。
- 2) 2012年度より相談室の場所を保健センターの隣に移し、両者の連携・協力をより強化することとした。

### 4 教育改革、研究の推進、地域との連携強化

- 1) 各学科の特色ある教育を支援するために教育推進研究費を新設した。
- 2) 外部資金獲得および外部評価委員会からも指摘のあった研究の推進に関する諸課題に対応するために教授会に教育研究推進部を設置した。
- 3) 就業力育成支援GPに選ばれた活動を軌道に乗せるべく体制を整備した。
- 4) 本学独自のキャリア教育を構築・研究・立案・実施するために、2012年度より教授会にキャリア教育推進委員会を置くことにした。

### 5 情報公開の全面的実施

- 1) 学校教育法施行規則等の一部改正を受け、本学でも9項目にわたる教育情報をホームページ上に公表した。

### 6 大学中期教育計画の作成

- 1) 学院の中長期計画およびこの度の自己点検評価などをもとに、大学としての中期教育計画を作成した。そのいくつかは2012年度の事業計画などによって具体化への一歩を踏み出した。教員学生数比や女性教員比率の改善等、いくつかの課題については中長期的に数値目標を設定し、改善に向けた方針の確認や規程の改訂等、教員人事計画に関する見直しを行った。

### 7 新学寮の建設

- 1) 新学寮建設計画が現在進行中である（2012年度内完成予定）。

### 8 事務情報システムの活用

- 1) 2012年度には大学事務情報システムGAKUENにユニバーサル・パスポートを導入し、授業・教務・学生生活・就職情報等をWeb上で一元的に管理・運用できるよう事業計画を立案した。

以上、本学のこの1年を振り返れば、大別して東日本大震災への緊急対応（危機管理、被災学生への経済的支援等）、自己点検評価に基づく改善（学生相談体制の強化等）、認証評価時の指摘を踏まえた改善（教員学生数比の向上等）、中期教育計画に基づく改革（人事計画の立案、キャリア教育の推進等）に取り組んできたが、震災への対応も含め、今後さらに改善・改革への歩みを進めていかなければならない。